

公民館グループによる絵本読み聞かせ



撮影 4月末から



第712号
 発行人 ● 豊丘村 公民館
 館長 原 国人
 編集人 ● 長野県下伊那郡
 豊丘村 公民館報
 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (6月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,346人
 女 3,371人
 総人口 6,717人
 世帯数 2,195戸

なしっ子公園は平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

なしっ子公園の思い出

伴野区長 長谷川義久

なしっ子公園は平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

なしっ子公園は、平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

なしっ子公園は、平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

なしっ子公園は、平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

なしっ子公園は、平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

(松尾 一志)

なしっ子公園

リニューアルオープン

5月30日

なしっ子公園は、平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

なしっ子公園は、平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

なしっ子公園は、平成5年に完成しました。その頃、豊丘村の未来を考える異業種仲間「フロンティア倶楽部」が発足したばかりで、新しく公園を作るのなら「こんな公園を作って欲しい」と当時の伴野区長福澤勝美氏に相談し倶楽部の考えを伝えた記憶があります。

(松尾 一志)

村CATVと共同で番組制作

5月から放送

新型コロナウィルスの感染拡大が、社会に閉塞感や不安感を広げたこの春、公民館では、特に子どもたちを励まし、社会教育活動への関心も高めてもらうため、絵本の読み聞かせ活動に取り組んでいる公民館グループ「絵本の会」と「ニコちゃんズ」に、読み聞かせ番組の制作にご協力いただきました。また、村内在住で音楽指導に携わっている皆様に協力いただき、歌番組の制作にも取り組みました。

(松尾 一志)

(松尾 一志)

(松尾 一志)

段立

ここ数ヶ月間は新型コロナウィルスによってこれまでの生活が大きく変わりました。学校は数ヶ月休校が続き、ゴールデンウィークには緊急事態宣言による移動制限の要請を受けて、例年とは異なる過ごし方をされた方が大勢いるのではないのでしょうか。テレビや新聞も、いつもなら高速道路の大渋滞、新幹線の高い乗車率を報道していたのに、今年は全く真逆の報道をしていました。毎年あの大渋滞に巻き込まれていた人達にとって、あの混雑のない高速道路を見てどう思ったのでしょうか。

減少したのは車の往来だけではありません。空を飛ぶ飛行機の便数も減ったのは空を見上げれば明らかです。経済活動も制限されたことで、大気汚染や環境汚染が減少したという話も聞きました。新型コロナウィルスの影響が世界規模で起きているのだと知ることができます。

このような状況の中でも、テレワークやインターネットを使った会議や学習など、新たなライフスタイルを導入し、変化に対応する人たちのたくましさには感心するばかりです。

最近では確認される感染者数は減少したものの、いつまた増加するかも知れないというニュースを聞く、不安にもなります。この状況の終わりが早く来ることを願うばかりです。

コロナに関する人権問題

第三の感染症を防ぐ

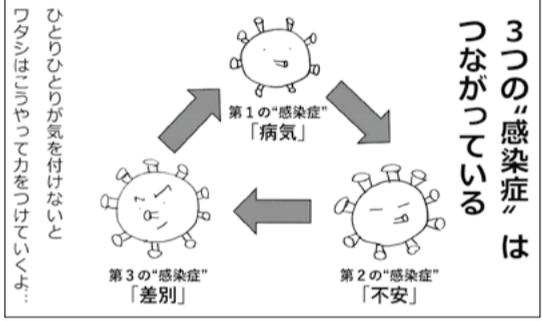
南信教育事務所飯田事務所 主任指導主事 牧野 孝裕

新型コロナウイルス感染症 拡大によって、世界中が未曾有の事態となっています。 「新しい生活様式」が示されているように、今の状況を皆が受け入れ、安全で暮らしやすい地域社会になるようお互いに努力し続けていくしかありません。

しかし、感染拡大が進むにつれて、感染者や濃厚接触者だけでなく、店舗、医療従事者、運送業者などに対する根拠のない差別的な発言、偏見、人権侵害にあたる行為が問題となってきました。感染者に関するいじめやデマがSNS

日本赤十字社は、新型コロナウイルスには「三つの感染症」という顔があるとしています。一つ目は「病気の不安と恐れ」、二つ目は「差別」です。感染者に関する噂やデマを流す人は「正義」と思っているかもしれませんが、実はその人も嫌悪の対象を偏

見・差別し遠ざけることでつかの間の安心感が得られる「第三の感染症」に罹患しているのです。 差別的な言動に同調せず、この事態に対応している全ての方々にねぎらい、敬意を払うことが、私たちの心の中への感染症を防ぐ手段となるのだと思います。



虻川下流域三六災害体験談(13) 伴野地蔵堂墓地が、将来の満水で再び被災することはないか?

原 章(古畑)

☆伴野の側でも虻川氾濫は起こっていた☆

私は、虻川から離れて高い位置の家に住んでいます。そういったことから、無責任のようですが、虻川氾濫は少し他人ごとのように思っていました。しかし、前回書きましたように、自分の家のお墓が虻川氾濫にあっていたこと、三六災の時

には起こらなかった上村側での氾濫がもっと以前に起きていたことは、とても衝撃的なことでした。

☆最高雨量を上回ると今までにない被害が起こる。虻川下流域氾濫の可能性は、これからもある☆

三六災後の虻川の流れの改修で、伴野地蔵堂墓地は、三六災当時よりも虻川に近

い場所になり、それだけ危険性が増しました。けれども、堤防は高くなり、しっかりとしたものになったので、虻川の氾濫を免れられるかもしれません。

そうは言っても、豪雨や洪水の程度によっては、心配になります。最近の豪雨災害は、規模が大きく、しかも頻発です。

三六災の時の雨量については、飯田測候所で昭和三十六年六月二十三日から七月一日までの合計で五七九ミリメートルを記録しています。六月二十七日には三二五ミリメートルの降雨で、明治三十一年の測候所



墓地から堤防までおよそ30m

令和2年度・3年度公民館社会部事業

石造文化財に光を当てる

この事業は、今年度から二年間に亘り実施します。路傍に数多くある石造文化財を悉皆調査し、その文化的価値を再評価する資料を製作します。

調査のもととなるものひとつに、昭和四十六年に発行された武田彦左衛門先生が編さんされた「村の石神と石佛」があります。先生が丹念に写生された石仏がいわれと共に分かり易く載っております。また、北市場二の水野正義先生が資料館にお勤めの頃、写真に

ある石仏の有無、位置、写真撮影した資料を、マップや本にまとめ、郷土学習の教材として先人の思いを次代に伝えることを目的とします。

小学生に路傍の石仏について聞いたところ、お墓だと思っていたとのこと。野山を駆け回ることもしょなくなり、山や川、自然の中に宿る神仏に手を合わせるものが少なくなった現代だからこそ、先祖様が、厚い信仰のもとに祀ってきた石仏を資料としてまとめることはとても大切なことです。残念なことに、先人が歩

いた山道が無くなり山奥の石仏までたどり着くことが困難なこと、石仏自体が盗難に遭ってしまった

ことを聞き、調査し、事実であればありのままを記録していくしかありませんが、これを機に石仏に手を合わせる心、野辺の花をお供えするやさしい心を養ってほしいと願います。



佐原区民会館付近の石仏

の交通事故に続く二度目の入院であった。聴力、脚力、視力とも問題なく、食べ物には好き嫌いがなく、血圧も正常という健康体である。特別な趣味は持たないが旅行には目が無く、国内各地の温泉を求めて夫婦で巡り歩いた。ずっと支えてくれたきた米子さんは最近足腰が弱ってきたのが気がかりだ。五人の男兄弟は甲府、埼玉、栃木、村内と離れており、さすがに昔のように兄弟会は出来なくなったが、皆元氣であることが何より嬉しい。若い頃からそうであったが、テレビはニュース、一部のスポーツものを見る程度であるが、最近の世相には心配が尽きない。親から引き継いだ大原家を守ってきた自負もあり、次世代に繋いでいくことが役目と

シリーズ「元氣な高齢者」68 内に秘めた熱い心で守った我が家

大原重幹さん 九十一歳 林原在住



七三に現在地に居を構えたとされ、重幹さんは十七代目に当たる由緒ある家である。

小学生の頃、近所の同級生十人ほどの学校からの帰り道、途中の店でアメ玉を買い口に頬ばりながら家路についていたのは懐かしい思い出。当時は養蚕が主流であったが、その飼料となる桑の木の皮は軍服の材料になるため競って学校へ持参したが、友達の中で一番多かったのが自慢であった。

父親は本業の傍ら区役員、村会議員、村の助役など公務に積極的に関わり家を留守にすることが多かった。一方重幹さんは幼少の頃から動くことが好きで、農業の手伝いを進んで行っていたため、高等科を卒業後は

昭和四年に現在地で、農業を営む両親の元六人きょうだいの総領として生まれた。しかしただ一人の妹は七歳の時、急性胃腸炎で亡くなってしまった。全くの不慮の出来事で今でも目に焼き付いている。大原家は武田信玄の系統で、遡ること約四百四十年前の安曇野の西山城の城主で、信長との戦いの末、天正元年(一五

迷うこと無く家業を継ぐべく農業に勤しんだ。蚕の他には米、大豆、麦などを耕作していた。以来農業一筋であったが、途中で農閑期を中心に、休みを自由に取れる仕事を選んで飯田市の会社に勤めに出た。

三十歳の時、知人の紹介により、上郷生まれで六歳下の米子さんと結婚した。米子さんは何事にも控え目で、農作業を手伝いながら家事をこなし、常に重幹さんに尽くした。重幹さんは元来温厚な性格で争い事は好まない。また表舞台に出ることは性に合わないが、几帳面な性格故に地域の信頼が厚く民生委員、区委員、厚生年金委員など公務に請われることも多々あった。

若い頃に自動二輪車の運

(文責 桐崎長一)

とよおか100年祭

『豊丘村民話集』より

笑えぬ落とし噺

河合市平

堤(用水池)にまつわる伝説というのは、どこの土地にもあり、古く大きい堤にはそれ相当の言い伝えがあるものである。ここに述べる堤は江戸時代の末期に築堤されたと聞か、年代は定かではない。

どこでも荒廃した土地の開拓には「水」が最大の必須要件であるが、この土地の築堤には条件がいたって悪く、何度堤を築いても梅雨期の出水に壊れ、手の施しようがなかった。そこで村の庄屋と村役が相諮り、これは「人柱」を埋めなければ成就しない、その人柱には若い娘がよいとのこと、で村一番の器量よしの娘が人柱になったとかいう言い伝えを聞く。

こうしてできあがった堤は洋々として水をたたえてはいるが、周囲は杉木立で

で、果てはあらぬ作り話までまことしやかに言いふらすものまで出てくる。なんでも、この堤のお釜には身のたけ一丈(約三十四メートル)余りの緋鯉が棲んでいて、それが鳴くのだという。いや緋鯉ではない、身のたけ一丈は本当だが正体はハザコ(サンショウウオ)だという人もいる。

それが甲子の子の刻(深夜0時ころ)にだけ姿を水面に現すそう。それは人柱になった娘の霊が悲しさのあまり緋鯉になって泣き悲しんでいるのだという人もいる。しかし何かの祟りであることはまず間違いない。かろうというので村中で相談し、立派な祠を建立して人柱の霊を慰めるため盛大なお祭りをするに決した(この祠は今も残っている)。祭りの当日は木の香も新しい絵ヒノキ造りの祠の前に山海の供物をし、神官を呼んで祝詞をいとも丁寧にして厳かにあげてもらい、村中総出で人柱の霊を慰めた。

そうしたら、その翌日からピタッと鳴き声が止まった。村人たちはやっぱりそ

うだったのかと安心するやら、余計に気持ち悪く思うやらで、一応ことは収まったかに見えたが、しばらくするとまたうなりだした。そのころ、村に進歩的な考えを持つ勇猛果敢な若者がいて、これは祟りでも何でもないと考え、ひそかに原因究明にのりだした。当

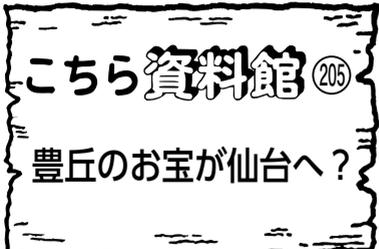
時のこととて立派な機械があるわけなし、もっぱら足と目と耳を使ってする至難の業であったが、根気よく堤のほとりに掘立小屋を建て、昼夜の別なく音を伝わってくる方向を探り、これを追うことにした。

取まらぬのは村人たち。そんなことをしたら祟りはますますつづいて、その主(緋鯉)は堤を破って出て行ってしまふ。あの堤が切れたら村はひとたまりもないと騒ぎだした。これを聞いて村役は村のためにもやめるよう再三にわたって若者を口説いたが、彼の意志は強くこれを覆すことはできなかつた。

彼はまず音の方向を探るため、小舟に乗って音のするあたりへ来て探ってみると、音は前方の山の中腹あたりで

たりにするように思える。そこで音を追って山の中腹まで来ると、今度は山の向こうであるのである。ここまで来るのに相当の日数がかかった。彼はあきらめることなく、さらに進んで行くくと、二つの山を越えたむこうの部落で、今度新たに製糸工場が建設され、その工場の煙突に備えられた汽笛が朝、昼、晩と同じ時刻に鳴って時を告げていることがわかった。これがこ

まど、まさに消滅した。そのころ、山に進入して行くくと、二つの山を越えたむこうの部落で、今度新たに製糸工場が建設され、その工場の煙突に備えられた汽笛が朝、昼、晩と同じ時刻に鳴って時を告げていることがわかった。これがこ



写真は仙台市の富沢遺跡内にある「地底の森ミュージアム」というユニークな博物館です。紐のように見えるのは木の株や根です。昭和六十二年、小学校建設のために発掘調査を行ったところ、弥生時代の水田跡が見つかり、その下の地層から約二万年前(旧石器時代)の森林が発掘されました。そして、その一角から焚火跡と思われる炭と多数の石器が発見されました。これは旧石器人が森の中で野営をした明らかな痕

跡と考えられます。市では現地をドームで覆って保存し、博物館としました。今年三月、このミュージアムから学芸員の平塚さんが当資料館にみえました。目的は、伴野原から出土した「パン状炭化物」と「種実圧痕土器」です。「地底の森」で開催予定の特別展にこの二つをどうしても展示したいということで、安全に移送する方法を確認す

るために来られたのです。当日は、酒井幸則氏にも立ち会ってもらい、発掘現場にも案内いただきました。平塚さんも、伴野原の地形等から縄文当時の生活環境が具体的にイメージできたらしく、豊丘の地が大変気に入ったようです。展示会は今秋の予定です。コロナの状況でどうなるかわかりませんが、豊丘の『お宝大使』の仙台行き



資料館主任 唐澤武彦

俳句短歌

川隔て色舞いたつや藤の丈
石楠花や共に見し日も花あふれ
青葉風ライン交換孫の顔
山鳩の声気にしつづ豆を蒔く
杜杉の間合いに遠き春の駒
花摘みてテイクアウトの夕餉かな
苗木市レジも青空下にあり
高峻の夏の光に心溶け
風化せし井月句碑や青田風
休館の貼り紙剥がれ立夏なり
代田水駒ヶ岳を捉へて生き生きと
疫病とけ万緑の中登校す
亡き母の相津穹天桐の花
月へ散る梨花さらさら田水引く
青田風初孫いだし引越せり

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
森田 恵子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
池田 美和
丸山 時子
矢島千勢子
河手 洋子
北原 昭子
林 恵美子

新消防団長 就任

豊丘村消防団団長 壬生要士



が地域防災の要です。消防団活動へのご理解をお願いします。また入団希望者も随時募集しておりますので、自分の経験値を高める為にも消防団に入りませんか。最後に「公助」として、公的機関が専門的な知識を生かし活動するとの文言があり、広域消防・警察・役場などを指します。しかし実際の災害時には、十分に機能するかは定かではありませんし、いつ誰が被災するかはわかりませんので、防災意識を村民の皆様も持って頂ければと思います。現在、豊丘村では火災が少くない状況です。自分を、家族を守る為にも、恐ろしい火災を絶対に起こさない様にしましょう。村民の皆様、ご理解協力をお願いします。

〈豊丘村川柳クラゲ豊柳会〉

▼課題「保」 久保ひろし 選
聞き役がいて平穏が保たれる 小澤 凜
保険制度あつて暮らしが楽になる 安田 喜子
彼の愛保ったままでいてほしい 鎌倉美登里
手の届く距離を保って家族の和 西元 峯子
軸吟：介護保険使わず生きて大往生 福澤 亀人

▼課題「在」 互 選
高齢化在宅福祉手がほしい 市沢 照子
こいのぼり男の子在り風に舞 林 もも子
無言でも存在感で座を圧す 桃沢 健介
日々コロナ存在感を示す知事 原 美風

▼自由吟 桃沢健介 選
トランプが壁作つてもコロナ入る 神稲 邪道
普段着のままの暮らしが心地良い 久保ひろし
コロナ禍で武器よさらばの時が来た 山本 義彦
コロナ禍をよそに悠然鯉のぼり 福沢 勝美
軸吟：居酒屋のピンチ救おうクーパー券

豊丘の自然

~シリーズ~
No.197

ハンミョウ科4種



左からハンミョウ、コニワハンミョウ、ニワハンミョウ、ミヤマハンミョウ。
南信地方には六種いるようだが、そのうち四種を確認したので、まとめて紹介する。
この四種、生活場所が微妙にちがうようだ。一番わかりやすいのはミヤマ(深山)ハンミョウ。名前の通り標高が高い。次はコニ

(山田 拓)

この方は元々編み物が好きで二十年以上に亘って携わってこれ、昨今のコロナ騒動が大きくなった頃、何か役に立てることはないかと思案していた時に、マスク作りを思い立ち三月下旬に手探り状態で始めた。当初は材料も自分持ちで、子供、孫、近所の方など身近な人達に配っていたが、四月始めに有線放送で製作者を募集してい



村社協には300枚を超える手作りマスクが集まった(撮影:5月12日)

サーミの伝統衣装は「カウフテ」といい、地方によって形が異なる。一般的な色は青色だが、最近では緑や白、黒など様々な色があり、白銀の中で見えるカウフテの色は鮮やかで美しい。独立記念日などの伝統的な日にはシルバーのアクセサリーを身につけて、毛皮の靴を履き、パレードをするのが

北の大地にあこがれて

津田 孝平 #4



堅信式後の記念撮影

習わしとなっている。僕の住んでいたカウトケイノオでは伝統色が強かったこともあり、日常的にカウフテを纏っている人の割合が多かった。また防寒効果にも優れているため、仕事着として着用している人も見られる。今回の連載は文章ではなく、写真を楽しんでいただけたらと思う。



一般的なカウトケイノオのカウフテ



赤ちゃん用のカウフテ



イースターに合わせて帰省した青年たち



仕事中でもカウフテを纏う青年



ノルウェーの独立記念日にパレードをおこなう

俳句・短歌・川柳は、3面へ移動しました。カラー写真を活かした記事などは、できるだけ4面のカラーページに掲載してまいります。写真を添えた皆様の投稿を是非お寄せください。

六月二十一日(日)は父の目。母の日に比べると影が薄いのではと。同様に父の歌も少ないと感じる。父の歌にあまり関心がなく、無頓着だったためか、数える程しか思い当たらない。しかし、男を題材にした歌には惹かれ、時にはカラオケで熱唱する。「無法松の一生」「いつぼんどこの唄」「舟唄」「兄弟船」「風雪ながれ旅」「まつり」「北の漁場」「熱き心」「冬のリヴィエラ」「落陽」「俺たちの旅」「もうひとつの土曜日」等々。思わず口ずさんでしまう。

歌は世につれ〜 六話

父の日に寄せて「時代おくれ」

上佐原 小池 光好

代を作り、時代に愛されたとされる阿久悠。時代の半歩先を常に追い求めた男が書いた「時代おくれ」。国中がバブルに踊らされ、新しいものやせいたくなくも

私に失敗をした時やアクシデントに見舞われた時、

すように、ある意味理想の父親像を唄った歌もある。この歌の発売は昭和六十一年。バブル景気に突入した年である。
作詞は、時代を探り、時を誰かが欲した時代。そんな空気に疑問を持つ男もいるのではないかと詞を書いたという。
♪目立たぬように はしゃがぬように 似合わないことは無理をせず 人の心を見つめつづける 時代おくれの男になりた い♪ ♪あれこれ仕事もあるくせに 自分ことは後にする ねたまぬようにあせらぬように 飾った世界に流されず♪ バブルに浮かれる風潮に警鐘を鳴らすような言葉が綴られている。
阿久悠の息子さんは言う。「時代を見つめながらも時代に流されるなどというメッセージなんです。それは、父のある種の決意表明だったんだろうなと思う」と。
私は失敗をした時やアクシデントに見舞われた時、



浮かれやおどりが招いた結果だと悔い、「調子に乗るな、慢心するな、謙虚になれ」と自らを戒めている。「時代おくれ」を思い起こし、映画の中の健さんらしい浮かべて反省するも、悲しいかな、繰り返しの連続である。

【原稿募集】

歌にまつわる思い出やエピソードなどを、写真を添えてお寄せください。字数は問いません。